



なごや「聖歌」だより 5月号'11

今月の予定

聖歌練習

名古屋:代式後の練習はなし

- ・主日聖体礼儀後、ワンポイントレッスンを行います。
- ・毎主日朝、発声練習をしています。ご参加よろしく。

半田:5月18日12:00から

名古屋指揮当番

8日ピーメン松島、15日エレナ広石、22日マリア松島、29日ピーメン松島

ズナメニイ研究会

5月25日1:30から。

グレゴリオチャントが西洋宗教音楽の原点であるように、ズナメニイはロシア聖歌の原点です。ズナメニイを知ることによってビザンティンとの連続性をとらえ、合唱音楽へと発展したロシア聖歌の底にある正教会聖歌の本質をさぐります。また日本語でズナメニイを歌ってみて、古聖歌の魅力を感じてみます。

<http://www.orthodox-jp.com/liturgy/Znameniy/chant.htm>

知って祈ろう - 奉神礼・聖歌入門

1. アンティフォン その2

街の大聖堂の伝統

日曜日の聖体礼儀のアンティフォンは「我が霊や、主を讃め揚げよ」で始まる第102聖詠、145聖詠と「真福九端」ですが、復活祭など主宰の祭日には「救世主や、生神女の祈禱によって我等を救い給え」というリフレインのついたアンティフォンが歌われます。

「我が霊や」が修道院の伝統なのに対し、主宰の祭日の「救世主や」というリフレインを含むものはそれより古く、コンスタンティノープルなどの街の大聖堂で歌われていた歌です。

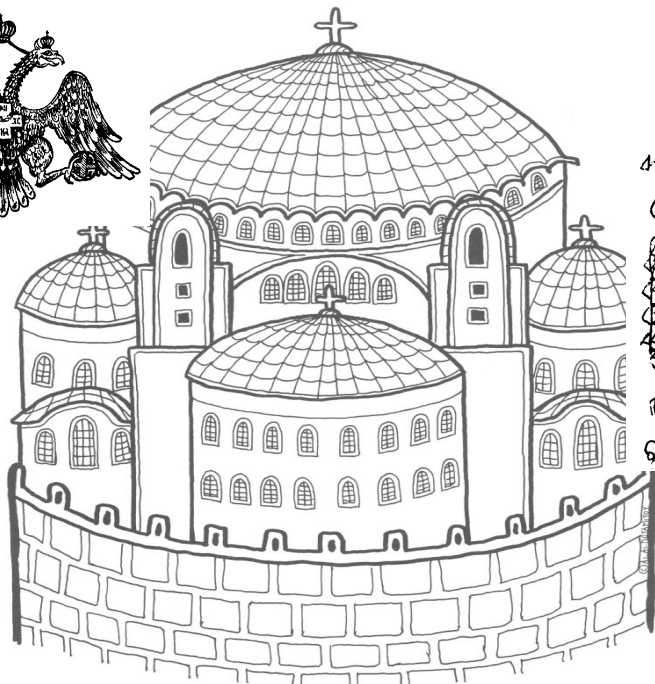
ビザンティンの街の教会では「行進」が頻繁に行われました。特に祭日には、その祭日の名を冠する聖堂に向かって総主教や皇帝を先頭に街中の人々が行進しました。左右に分かれた詠隊が掛け合いで歌い、街の人々も「救世主や」というリフレインで唱和しました。その歌い方がアンティフォンです。ローマ式の街には

あちこちに広場(フォーラム)があります。行列は広場につくと、立ち止まって連禱を祈りました。ですから今でもアンティフォンは三つ一組で連禱と組み合わせられています。聖体礼儀も3つのアンティフォンと連禱、聖大金曜日早課でも15のアンティフォンが三つずつセットで歌われます。

さて、聖堂に到着すると正面の広場でその日のトロパリを何度も歌います。やがて聖堂の門が開き、大群衆が一斉に聖堂に入ってゆきました。大聖堂にはたくさん門があり、正面の門は「王門」と呼ばれ総主教と皇帝専用の門でした。「聖入」は今では神品が至聖所から出て、至聖所に戻る短い動きですが、昔は文字土取り聖堂にはいることでした。

今でも復活祭をめぐる大斎から五旬祭には古い伝統がたくさん残っています。復活祭の十字行、聖堂の前でトロパリをくりかえすことなどは古代教会の形をはっきりと残しています。

ですから、ビザンティンではアンティフォンは聖堂まで行くときに歌われる歌で、「聖入」から「聖体礼儀」が始まりました。今聖体礼儀の冒頭で歌われる「大連禱」は、アンティフォンが聖体礼儀の一部として聖堂内で行われるようになった後の時代に、この位置に配置されるようになりました。かつては大聖入前の「信者の連禱」の位置で行われていました。



聖歌の伝統 J.V. ガードナー 著
「ロシア正教会の聖歌」から

ガードナーの『ロシア正教会の聖歌』は世界中で広く読まれている正教会聖歌の入門書です。
ここでは現代日本の状況に合わせて適宜省略、解説を加えてご紹介しています。

「大晩課」と「平日晩課」の比較表です。日曜や祭日には「大晩課」が行われます。『時課経』は平日晩課を基本に書かれています。大きな違いは「聖入」があるかないか、重連禱の位置で、「大晩課」では「主や我等を守り」の前、「平日晩課」では最後に行われます。

大晩課 (主日、祭日)	平日晩課
第103聖詠を歌う。	第103聖詠を誦読。
大連禱	
第1カフィズマの第1アンティフォン。(土曜晩課は3つのアンティフォンすべてを小連禱を挿入して行う。)	カフィズマ(聖詠)を一つを誦する。
小連禱	
晩課の聖詠 140、141、129、116聖詠、「主や爾に頼ぶ」八調経に記された調で歌う	
聖詠の最後の8または10句の間に、8または10個のスティヒラを挿入(場合による)。最後の4つのスティヒラは両詠隊が聖堂の中央に集まって歌う。最後の2つは祭的なスタイルで歌われることもある。最後のスティヒラを歌う時に、教役者は王門を通過して至聖所まで厳粛に聖入を行う。	聖詠の最後の6句の間に6スティヒラを挿入して歌う。
「聖にして福たる」を両詠隊で祝祭的な歌い方で。	「聖にして福たる」を簡素な歌い方、または誦する。
その曜日のプロキメン。	
祭の前晩は旧約聖書(パレミヤ)	
重連禱	
祝文「主や我等を守り」誦する。	
増連禱	
祭日にはリティヤ	
リティヤのスティヒラ。教役者らが啓蒙所まで行進する時に、両詠隊で。	
輔祭が「主や爾の民を救い」を5分割して唱え、聖歌隊はその度に「主憐めよ」40回、30回、50回、2回、3回で 応える。	
教役者らが聖所にもどり、司祭が終わりの詞を唱える。	
挿句のスティヒラを聖詠の句にはさんで。	
シメオンの歌「主宰や今爾の言に」通常歌う。	シメオンの歌「主宰や今爾の言に」誦する
聖三、至聖、天主 誦する。	
その日または祭のトロパリ。	
徹夜禱が行われる場合はトロパリの代わりに「生神童貞女や」	
リティヤが行われた場合は五餅と麦粒、油ワインを祝福。	
続いて33聖詠を歌う。(日本では省略)	
	重連禱
祝福と発放	
大晩課が徹夜禱の一部として行われる場合は祝福に引続き6段の聖詠(早課)が読まれる。	

ホームページのご案内

○ 「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。

「聖歌だより」のバックナンバーもダウンロードできます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>

詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 *Liturgia*

<http://www.orthodox-jp.com/liturgia> 奉神礼や聖歌の実践資料